



新板  
繪入

義經記 六

義經

~ 13  
3398  
6



門 へ 13  
3398  
巻 6

義経記巻第六月録



- 一 幸くく部志のびよ事
- 二 忠信さの事
- 三 乃の事
- 四 刺友南部志乃びよ事
- 五 又 園東より事
- 六 志乃の事
- 七 志乃の事



八巻六

10



らに陸奥へ申上り申す所ありしに、  
ていさきよりたがひあするともなれども、  
中實をいれども、  
空て我ゆへ一人の軸とせん、  
名妙と申す中、  
びそ、  
秋の経、  
國乃、  
りてから、  
と、  
ま、

か、  
な、  
む、  
と、  
う、  
廿九日、  
申す、  
た、  
う、  
か、  
申、  
た、  
た、  
是、

二宮のくちのぬけびつらゝりし事と申す  
て二宮を系はくはしと申すも二宮を父なる  
者なりと申すはしと申す事にて申すはたて  
と云宣旨宣旨に申すはしと申すはしと申す  
申すはしと申すはしと申すはしと申すはし  
申すはしと申すはしと申すはしと申すはし  
申すはしと申すはしと申すはしと申すはし  
申すはしと申すはしと申すはしと申すはし  
申すはしと申すはしと申すはしと申すはし  
申すはしと申すはしと申すはしと申すはし  
申すはしと申すはしと申すはしと申すはし



三



一 忠信とていふ事  
信義の心をわすれぬが故に知事たりとて輕く女に  
かゝりて其の心をいかにしむるにたゞしきなれば  
がたはらふところおかしうしてあらふおぼしき  
忠信とていふ事  
忠信の心をわすれぬが故に知事たりとて輕く女に  
かゝりて其の心をいかにしむるにたゞしきなれば  
がたはらふところおかしうしてあらふおぼしき  
忠信とていふ事  
忠信の心をわすれぬが故に知事たりとて輕く女に  
かゝりて其の心をいかにしむるにたゞしきなれば  
がたはらふところおかしうしてあらふおぼしき

口をぢと下ふひひがが別しておのをもつたがたに  
今あやみけをてひひのよひびしひてたつとれはつみ  
あやみけのしほをいけけりて抱かぬのよめくす歌の  
りてあひのころと申すはちと通てまほけりやとあひ  
あふはちと申す申すともひまをいひてまのむらと  
すめころあひのせてあふひのしもえんせうまひおを死も  
あせいのしほをいけりてあふひのしほをいけりてあふ  
すらの合同のあふひのしほをいけりてあふひのしほを  
口をぢと下ふひひがが別しておのをもつたがたに  
今あやみけをてひひのよひびしひてたつとれはつみ  
あやみけのしほをいけけりて抱かぬのよめくす歌の  
りてあひのころと申すはちと通てまほけりやとあひ  
あふはちと申す申すともひまをいひてまのむらと  
すめころあひのせてあふひのしもえんせうまひおを死も  
あせいのしほをいけりてあふひのしほをいけりてあふ  
すらの合同のあふひのしほをいけりてあふひのしほを

口をぢと下ふひひがが別しておのをもつたがたに  
今あやみけをてひひのよひびしひてたつとれはつみ  
あやみけのしほをいけけりて抱かぬのよめくす歌の  
りてあひのころと申すはちと通てまほけりやとあひ  
あふはちと申す申すともひまをいひてまのむらと  
すめころあひのせてあふひのしもえんせうまひおを死も  
あせいのしほをいけりてあふひのしほをいけりてあふ  
すらの合同のあふひのしほをいけりてあふひのしほを  
口をぢと下ふひひがが別しておのをもつたがたに  
今あやみけをてひひのよひびしひてたつとれはつみ  
あやみけのしほをいけけりて抱かぬのよめくす歌の  
りてあひのころと申すはちと通てまほけりやとあひ  
あふはちと申す申すともひまをいひてまのむらと  
すめころあひのせてあふひのしもえんせうまひおを死も  
あせいのしほをいけりてあふひのしほをいけりてあふ  
すらの合同のあふひのしほをいけりてあふひのしほを







きてひびきの下はしむの心も其の意はくしてあはれにふたば  
 るるも腹の中はくは腹りさうしむる人のよふらんくよ  
 打ちしよみらまを打ちさかするをまてうらまをいしむに  
 さいねるもゆひの下のほろ今いひせういしむるもいしむ  
 いていしむる念はくしてあはれも命もあふれし世回を  
 無常とていんてくろくわらわらわらわらわらわらわらわらわら  
 なるわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら  
 とあてられまてもあてられまてもあてられまてもあてられま  
 てあてられまてもあてられまてもあてられまてもあてられま  
 するはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ  
 知れぬのびりるはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ  
 くれんそぬいしむるもあはれはれはれはれはれはれはれはれはれ  
 ひびきまていしむるもあはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

てもひびきの下はしむの心も其の意はくしてあはれにふたば  
 るるも腹の中はくは腹りさうしむる人のよふらんくよ  
 打ちしよみらまを打ちさかするをまてうらまをいしむに  
 さいねるもゆひの下のほろ今いひせういしむるもいしむ  
 いていしむる念はくしてあはれも命もあふれし世回を  
 無常とていんてくろくわらわらわらわらわらわらわらわらわら  
 なるわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら  
 とあてられまてもあてられまてもあてられまてもあてられま  
 てあてられまてもあてられまてもあてられまてもあてられま  
 するはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ  
 知れぬのびりるはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ  
 くれんそぬいしむるもあはれはれはれはれはれはれはれはれはれ  
 ひびきまていしむるもあはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

東國より來りて居る者... 諸島を治めんと欲する者... 此の國に居る者... 國の邊に居る者... 國の内側に居る者... 國の外側に居る者... 國の近くに居る者... 國の遠くに居る者... 國の南側に居る者... 國の北側に居る者... 國の東側に居る者... 國の西側に居る者... 國の東側に居る者... 國の西側に居る者... 國の南側に居る者... 國の北側に居る者...

此の國に居る者... 國の邊に居る者... 國の内側に居る者... 國の外側に居る者... 國の近くに居る者... 國の遠くに居る者... 國の南側に居る者... 國の北側に居る者... 國の東側に居る者... 國の西側に居る者... 國の東側に居る者... 國の西側に居る者... 國の南側に居る者... 國の北側に居る者...

世もなかり昔も軍も是程乃の由にわづらひてり

に 村友南郷(一)のひはむあつ事一

叔も村友南郷(二)のんも房乃のりはむ(三)のり

よる金も徳も是とせむりて夫は徳細乃の時(四)あり

りたる書買(五)こころ乃のり(六)せあひ多佛殿(七)入なり

て極(八)あつる(九)なる(十)なり(十一)と(十二)は(十三)なり(十四)なり

小平家(十五)と貴(十六)あひ(十七)お(十八)り(十九)此(二十)金(二十一)と(二十二)は(二十三)は(二十四)あ(二十五)ひ(二十六)つ(二十七)る(二十八)なり

て(二十九)の(三十)が(三十一)れ(三十二)あ(三十三)ひ(三十四)つ(三十五)る(三十六)なり

川(三十七)より(三十八)こ(三十九)り(四十)も(四十一)佛(四十二)乃(四十三)は(四十四)名(四十五)唱(四十六)る(四十七)は(四十八)ひ(四十九)して(五十)生(五十一)く(五十二)は(五十三)り

ら(五十四)ぬ(五十五)来(五十六)世(五十七)と(五十八)た(五十九)も(六十)か(六十一)ら(六十二)と(六十三)る(六十四)は(六十五)あ(六十六)ひ(六十七)つ(六十八)る(六十九)なり

友(七十)乃(七十一)の(七十二)ひ(七十三)つ(七十四)る(七十五)なり

り(七十六)も(七十七)は(七十八)あ(七十九)ひ(八十)つ(八十一)る(八十二)なり

は

は(八十三)も(八十四)は(八十五)あ(八十六)ひ(八十七)つ(八十八)る(八十九)なり

が(九十)は(九十一)あ(九十二)ひ(九十三)つ(九十四)る(九十五)なり

中(九十六)は(九十七)あ(九十八)ひ(九十九)つ(一百)る(一百一)なり

是(一百二)ら(一百三)も(一百四)は(一百五)あ(一百六)ひ(一百七)つ(一百八)る(一百九)なり

名(二百)と(二百一)は(二百二)あ(二百三)ひ(二百四)つ(二百五)る(二百六)なり

物(二百七)は(二百八)あ(二百九)ひ(三百)つ(三百一)る(三百二)なり

む(三百三)も(三百四)は(三百五)あ(三百六)ひ(三百七)つ(三百八)る(三百九)なり

と(四百)も(四百一)は(四百二)あ(四百三)ひ(四百四)つ(四百五)る(四百六)なり

是(四百七)も(四百八)は(四百九)あ(五百)ひ(五百一)つ(五百二)る(五百三)なり

と(五百四)も(五百五)は(五百六)あ(五百七)ひ(五百八)つ(五百九)る(六百)なり

乃(六百一)は(六百二)あ(六百三)ひ(六百四)つ(六百五)る(六百六)なり

る(六百七)も(六百八)は(六百九)あ(七百)ひ(七百一)つ(七百二)る(七百三)なり







義六  
又、岡東もわくらん志あるとあつた事  
南郡は村ありあつた事  
九郎は世とみごとなる  
九郎はあひつらぬとてあつた事







ことわらむとてなりきりしとて事しは美神も本教の教  
 よとの人をもあつとすくと富前下りて多岐の時心流し  
 三百にたて南都より下りてその心をあつて直前  
 もじとて教をせしむるもこととて世に世に  
 けりて王法にほりてその心をあつて直前  
 なる事をもあつて世に世に  
 ありて世にほりてその心をあつて直前  
 らんとて世にほりてその心をあつて直前  
 富前下りてその心をあつて直前  
 ひに分りて世にほりてその心をあつて直前  
 けりて世にほりてその心をあつて直前  
 御殿上人の心をあつて直前

とて事しは美神も本教の教  
 よとの人をもあつとすくと富前下りて多岐の時心流し  
 三百にたて南都より下りてその心をあつて直前  
 もじとて教をせしむるもこととて世に世に  
 けりて王法にほりてその心をあつて直前  
 なる事をもあつて世に世に  
 ありて世にほりてその心をあつて直前  
 らんとて世にほりてその心をあつて直前  
 富前下りてその心をあつて直前  
 ひに分りて世にほりてその心をあつて直前  
 けりて世にほりてその心をあつて直前  
 御殿上人の心をあつて直前











天下ははるかにして、  
て日本と中国は、  
やうき出て出た、  
あまのまは、  
し、  
今、  
と、  
家、  
も、  
兄、  
が、  
外、

見、  
と、  
ま、  
を、  
た、  
事、  
良、  
修、  
に、  
は、  
ま、  
ま、  
ら、  
ま、  
ら、



世ら由るべしと道舎ふたつをいふはあまのしげあは  
 此法乃地ながさるを法に留めたるをいふは十善  
 りんをのるにやまらぬおとすの目録なり成すやと  
 なることのうまうしりし治業定みの智はあはれ  
 十悪又逢被戒智智の智乃をわくははせおせり  
 けりておのまきまきしは利益の言ひてはりて  
 修業のりしては果てあまの道舎ふたつをいふは  
 ちかた神し法法真なるを中しりてははれ  
 してはりては法法なる道舎ふたつをいふは  
 べきは法法なる道舎ふたつをいふは  
 大なるなりは法法なる道舎ふたつをいふは  
 なることなりは法法なる道舎ふたつをいふは  
 とはのせう長き院乃う法おぼはるははれ

道舎ふたつをいふは法法なる道舎ふたつをいふは  
 及びしは法法なる道舎ふたつをいふは  
 申すなりは法法なる道舎ふたつをいふは  
 平三の圖乃法のあはるは法法なる道舎ふたつをいふは  
 ちかた神し法法真なるを中しりてははれ  
 ひろが好まの法法なる道舎ふたつをいふは  
 ちかた神し法法真なるを中しりてははれ  
 ぬと法法なる道舎ふたつをいふは  
 道舎ふたつをいふは法法なる道舎ふたつをいふは  
 なることなりは法法なる道舎ふたつをいふは  
 百三十六部乃法法なる道舎ふたつをいふは  
 法法なる道舎ふたつをいふは法法なる道舎ふたつをいふは





那さあしどもおとろは住居あてしつて古縁小堀  
 成ふれりれ集むる清和春美乃れすも縁金ありの  
 業にていつてせあひをりておとろとあひあし  
 且どおとろの身あつておとろの身あつておとろの  
 乃んはとておとろの縁金ありの縁金ありの縁金あり  
 てもおとろの身あつておとろの身あつておとろの  
 かりておとろの縁金ありの縁金ありの縁金あり  
 事なればおとろの縁金ありの縁金ありの縁金あり  
 是れおとろの縁金ありの縁金ありの縁金あり  
 とわけおとろの縁金ありの縁金ありの縁金あり  
 とておとろの縁金ありの縁金ありの縁金あり  
 角とおとろの縁金ありの縁金ありの縁金あり  
 うらなはれりておとろの縁金ありの縁金あり

とあるおとろの縁金ありの縁金ありの縁金あり  
 されりておとろの縁金ありの縁金ありの縁金あり  
 事なればおとろの縁金ありの縁金ありの縁金あり  
 是れおとろの縁金ありの縁金ありの縁金あり  
 とわけおとろの縁金ありの縁金ありの縁金あり  
 とておとろの縁金ありの縁金ありの縁金あり  
 角とおとろの縁金ありの縁金ありの縁金あり  
 うらなはれりておとろの縁金ありの縁金あり

て挽糸と云名とすべしなまらうしあはして又時が和ら  
 ぬと青屋乃時とせしなるもあまらぬあはりのさか  
 同の場ありぬれしはあはれしなるもあまらぬあはりのさか  
 うりきりかほ念ふより今れはあはれしなるもあまらぬあはりのさか  
 場ありぬれしはあはれしなるもあまらぬあはりのさか  
 宿ありぬれしはあはれしなるもあまらぬあはりのさか  
 ほろふとつる乃折はまをらうしあはして又時が和ら  
 の空なるもあまらぬあはりのさか  
 かこもあはれしなるもあまらぬあはりのさか  
 今分ちりてそのしはあはれしなるもあまらぬあはりのさか  
 みる猶ありぬれしはあはれしなるもあまらぬあはりのさか  
 ほろふとつる乃折はまをらうしあはして又時が和ら  
 びんとすべしなまらうしあはして又時が和ら

善二

三十五

之巻ノ廿六





うきひ乃外に多ら地神もあられ流ひまろやいふに  
 色なきも心づくときて存次乃妻女口んちりまはあつ  
 りひるまゝとらり世厭も平安なるとりかまゝあふと受  
 て口んあまのうらまへも酒もまゝとまゝは流る  
 い乃もいひてとて神おほくも君をまゝおほく  
 一めんとてわらふやとておほくもまゝとまゝいふも  
 こととてあひまの男の子の女子かゝまゝあふ袖をいふ  
 けろとてあひまの男子の目もあふやとて酒もまゝと  
 ぬやあふもいふも十ぬぬはあふものなまゝもあふまゝ  
 かなも月乃の光もまゝとまゝいふもまゝとまゝいふも  
 こととてあひまの男の子の女子かゝまゝあふ袖をいふ  
 けろとてあひまの男子の目もあふやとて酒もまゝと  
 ぬやあふもいふも十ぬぬはあふものなまゝもあふまゝ  
 かなも月乃の光もまゝとまゝいふもまゝとまゝいふも

二二六

二二六





あまてひをあらまこわをひさのあて馬けのうらむ  
 乃りしが死るる子すのうらむをいふはあまの  
 んをさるの根木の上ふもをなげ今も云々若浪が中人  
 なるも此世にばりまふは平じ死乃あふるはあまの  
 いけりしをいひてしはさすかごの約出て死乃世にまを  
 かぬいしをいひてるるをぬらぬらうの縁をもわくはさあま  
 成くそらうそりおらぬれもやくとる角乃砂乃あまの  
 上あまぬらのはまをうらむをいふはあまの事すんて  
 てしけりばぬてゆめて母もいふはあまの事すんて申くは  
 めらあまひてをいひうらむをいふはあまの事すんて申くは  
 つまらぬもあまの事すんて申くはあまの事すんて申くは  
 りもいふはあまの事すんて申くはあまの事すんて申くは  
 さいしあまの事すんて申くはあまの事すんて申くは

とていふはあまの事すんて申くはあまの事すんて申くは  
 まりあまの事すんて申くはあまの事すんて申くは  
 ていふはあまの事すんて申くはあまの事すんて申くは  
 かあまの事すんて申くはあまの事すんて申くは  
 けしてゆりするがゆりするがゆりするがゆりするが  
 やしはあまの事すんて申くはあまの事すんて申くは  
 七 其のうらむをいふはあまの事すんて申くは  
 乃りあまの事すんて申くはあまの事すんて申くは  
 ぬらあまの事すんて申くはあまの事すんて申くは  
 こまの事すんて申くはあまの事すんて申くは  
 けしてあまの事すんて申くはあまの事すんて申くは  
 國乃いふはあまの事すんて申くはあまの事すんて申くは

















仕りてこそ人のあはれは... 乃あはれとあはれ... 痛く身とほんで... かんじやと... 此の... 時乃... 戸... 何... かん... かん...

後... 意... 下... 一... ち... ち... の... ち... ち... ち... ち...









